2019年3月期（平成31年3月期）
第2四半期決算説明会

2018年11月22日（木）

株式会社エスライン

東京証券取引所市場第一部

名古屋証券取引所市場第一部

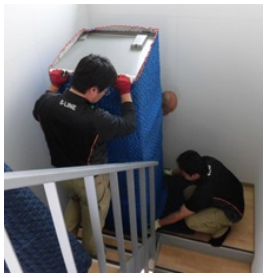
【証券コード：9078】

業績概要
（2019年3月期 第2四半期決算概要）

2019年3月期 第2四半期 決算トピックス

- 営業収益は2期連続で過去最高額を達成
- 営業利益率が2．7%から3．6%へ0．9ポイント増加
- 運賃改定の取り組みで8億円の収入増に寄与
- 『スワロー引越便』のステッカーを車両に貼付するPR活動
- 『引越研修センター』において、定期的な実技訓練
- 豊田第2物流センターの稼動開始

車両に貼付した「スワロー引越便」
PR用ステッカー



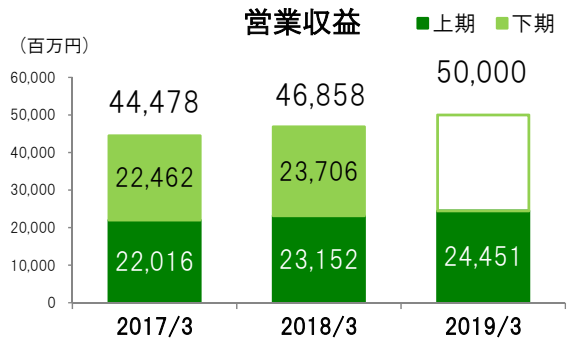
「引越研修センター」での
研修風景

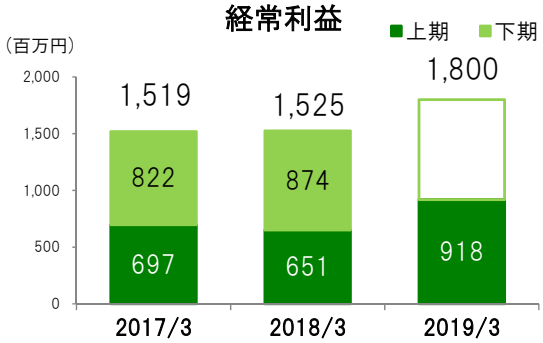
豊田第2物流センター

連結決算概要

（百万円）

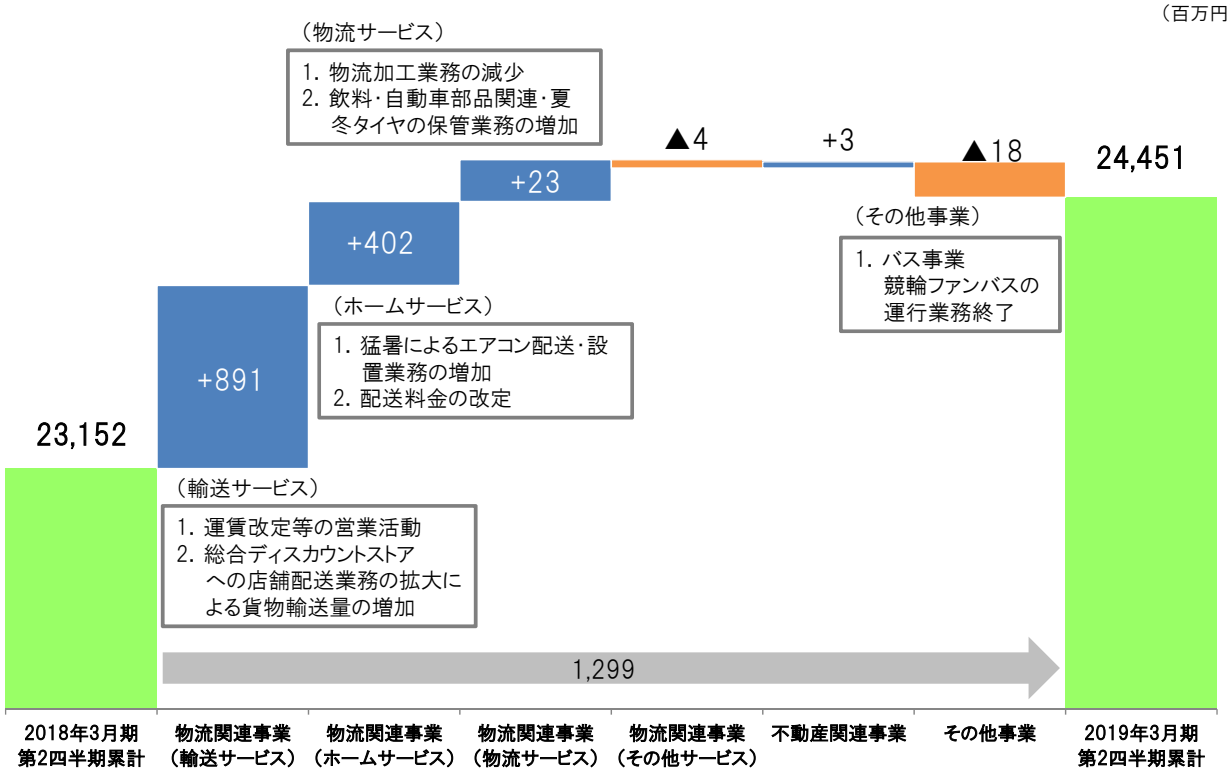
	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期				
					第2四半期				通期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	予想	実績	前期比	予想比	予想
営業収益	22,016	44,478	23,152	46,858	24,500	24,451	5.6%	▲0.2%	50,000
営業総利益	1,453	3,080	1,460	3,107	1,650	1,765	20.9%	7.0%	3,500
（営業総利益率）	（6.6%）	（6.9%）	（6.3%）	（6.6%）	（6.7%）	（7.2%）	—	—	（7.0%）
販売費及び一般管理費	799	1,654	833	1,652	870	875	5.1%	0.6%	1,750
営業利益	654	1,426	627	1,455	780	890	41.9%	14.1%	1,750
（営業利益率）	（3.0%）	（3.2%）	（2.7%）	（3.1%）	（3.2%）	（3.6%）	—	—	（3.5%）
経常利益	697	1,519	651	1,525	800	918	40.9%	14.8%	1,800
（経常利益率）	（3.2%）	（3.4%）	（2.8%）	（3.3%）	（3.3%）	（3.8%）	—	—	（3.6%）
親会社株主に帰属する当期純利益	470	1,224	422	986	530	570	35.2%	7.7%	1,200





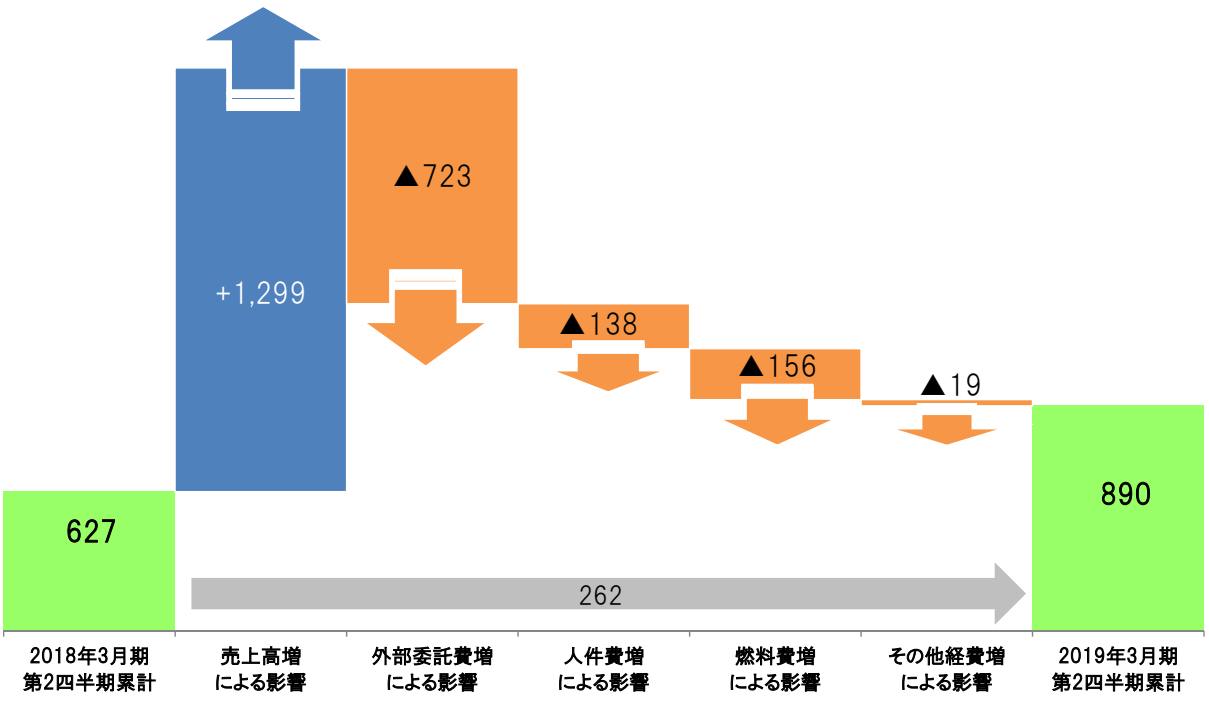
営業収益の増減要因（連結）

（百万円）

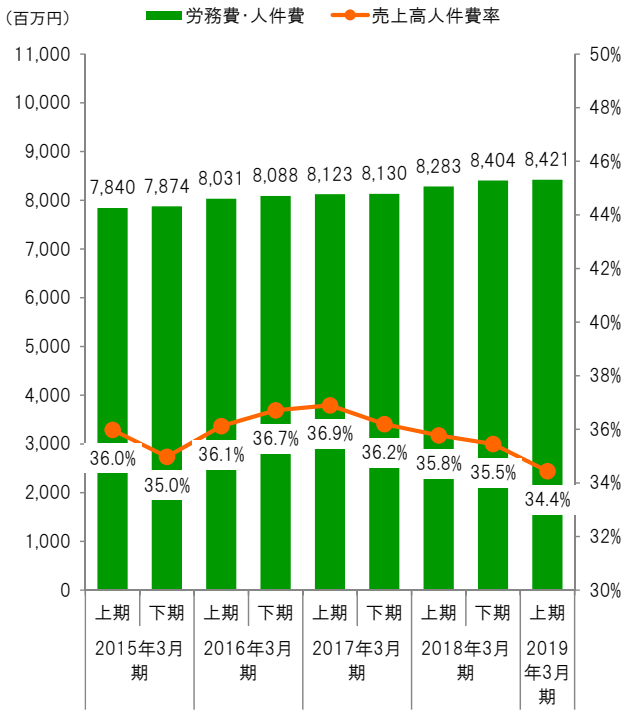


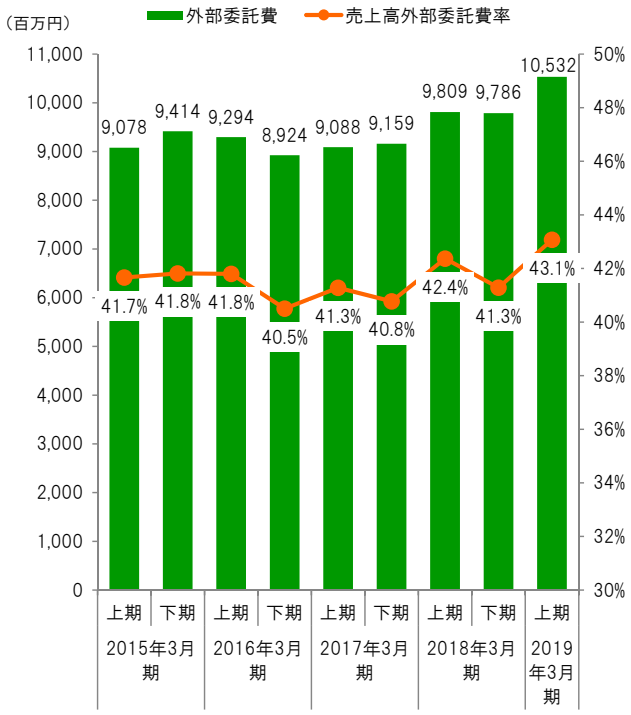
営業利益の増減要因（連結）

（百万円）



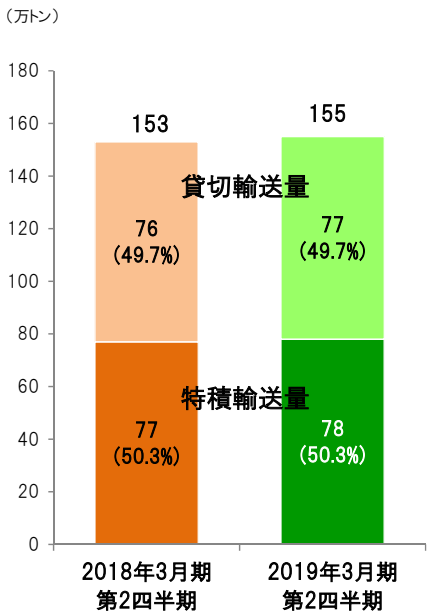
営業費用（人件費／外部委託費）の推移



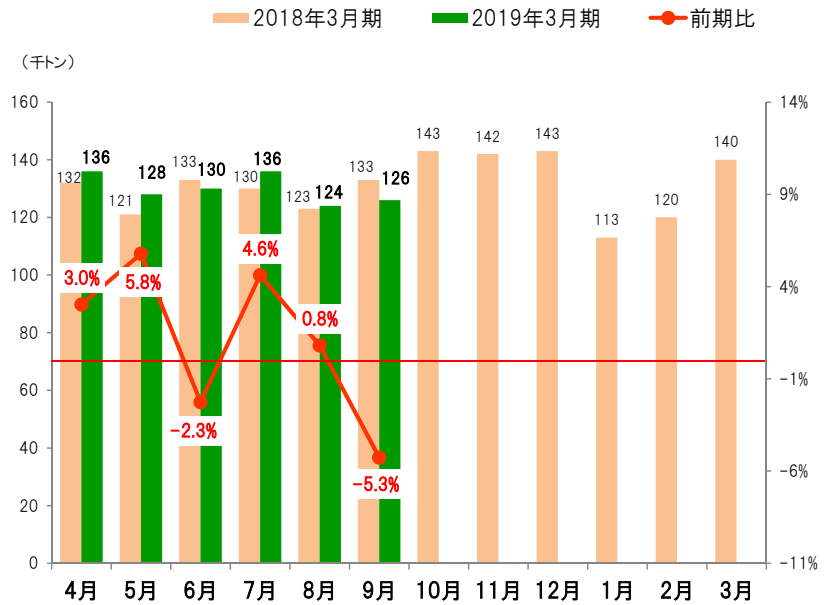


貨物輸送量の状況

貨物輸送量（特積／貸切）



月別特積貨物輸送量



営業日数	24	24	26	25	22	23	26	24	23	21	23	25	2018
	24	23	26	25	22	24	25	24	23	22	23	25	2017

セグメントの状況：営業収益

（百万円）

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期				
					第2四半期				通期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	予想	実績	（前期比）	（予想比）	（予想）
営業収益	22,016	44,478	23,152	46,858	24,500	24,451	5.6%	▲0.2%	50,000
物流関連事業	21,578	43,624	22,720	46,004	24,070	24,033	5.8%	▲0.2%	49,153
輸送サービス	16,677	34,651	17,610	36,585	19,135	18,501	5.1%	▲3.3%	38,866
ホームサービス	2,283	4,203	2,451	4,557	2,490	2,853	16.4%	14.6%	4,677
物流サービス	2,532	4,590	2,564	4,584	2,360	2,587	0.9%	9.6%	5,439
その他サービス	86	178	96	276	85	92	▲4.2%	8.2%	171
不動産関連事業	237	466	229	459	229	232	1.2%	1.3%	459
その他事業	199	386	202	394	198	184	▲9.1%	▲7.1%	386

セグメントの状況：営業利益

（百万円）

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期				
					第2四半期				通期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	予想	実績	（前期比）	（予想比）	（予想）
営業利益	654	1,426	627	1,455	780	890	41.9%	14.1%	1,750
セグメント利益	962	1,955	948	2,092	1,110	1,220	28.7%	9.9%	2,400
物流関連事業	771	1,603	782	1,775	948	1,066	36.3%	12.4%	2,086
輸送サービス	558	1,341	540	1,350	693	728	34.8%	5.1%	1,588
ホームサービス	40	▲6	76	116	93	177	132.9%	90.3%	137
物流サービス	158	243	148	265	144	145	▲2.0%	0.7%	325
その他サービス	15	25	18	45	18	16	▲11.1%	▲11.1%	36
不動産関連事業	125	236	111	221	107	114	2.7%	6.5%	222
その他事業	65	116	54	94	56	40	▲26.3%	▲28.6%	92
調整額（本社経費）	▲308	▲529	▲321	▲637	▲330	▲330	▲2.8%	0.0%	▲650

連結貸借対照表の概要

（百万円）

	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期	増減
流動資産	9,237	9,501	10,524	11,021	13,008	1,987
固定資産	22,924	23,316	22,857	22,847	24,071	1,224
資産の部合計	32,161	32,818	33,382	33,868	37,080	3,212
流動負債	7,481	7,380	7,408	7,945	8,756	811
固定負債	6,948	6,784	6,480	5,817	7,682	1,865
負債の部合計	14,430	14,164	13,888	13,763	16,439	2,676
株主資本	17,981	18,722	19,508	20,072	20,455	383
非支配持分	36	0	0	0	0	0
純資産の部合計	17,731	18,653	19,493	20,105	20,641	536
負債及び純資産合計	32,161	32,818	33,382	33,868	37,080	3,212
自己資本比率	55.0%	56.8%	58.4%	59.4%	55.7%	—

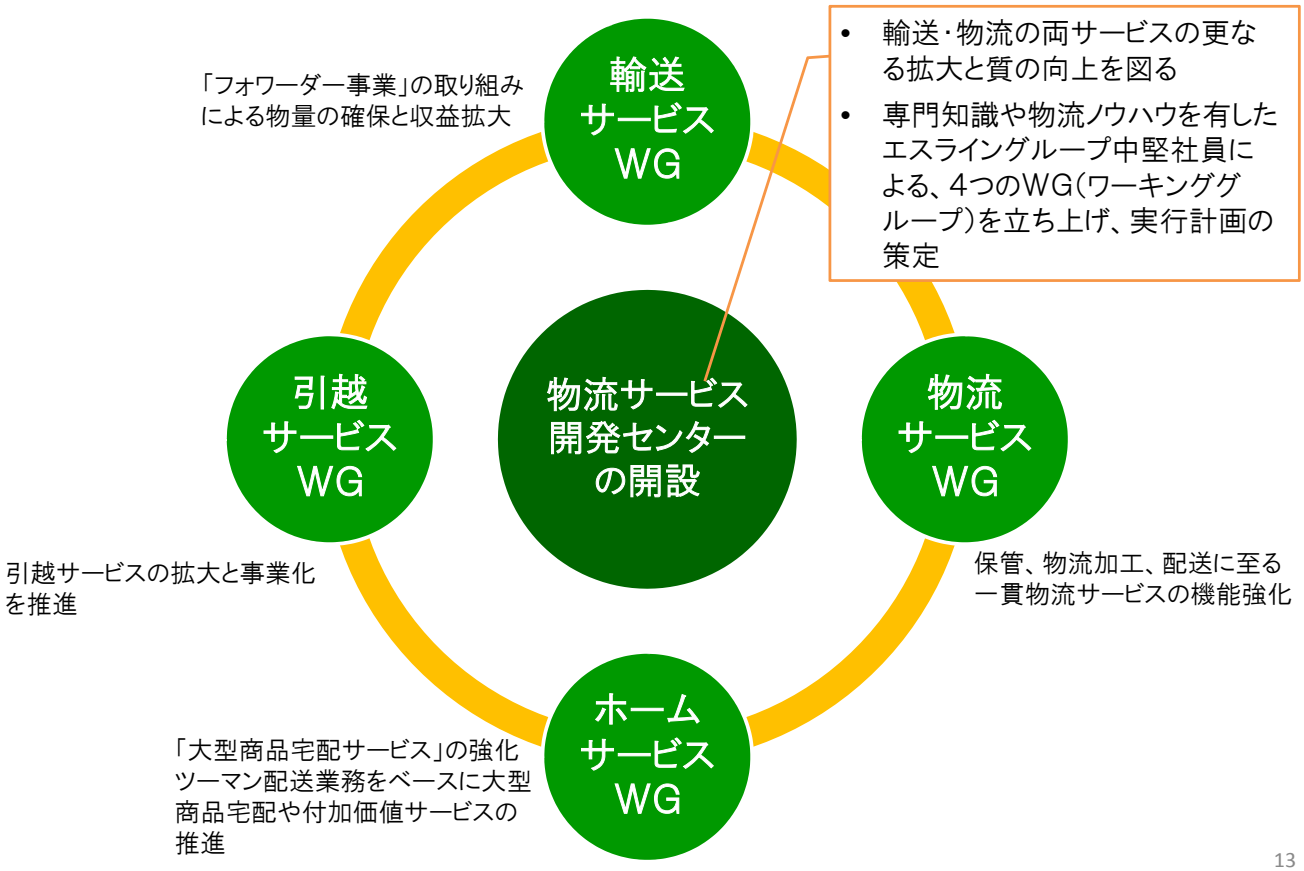
連結キャッシュフローの概要

（百万円）

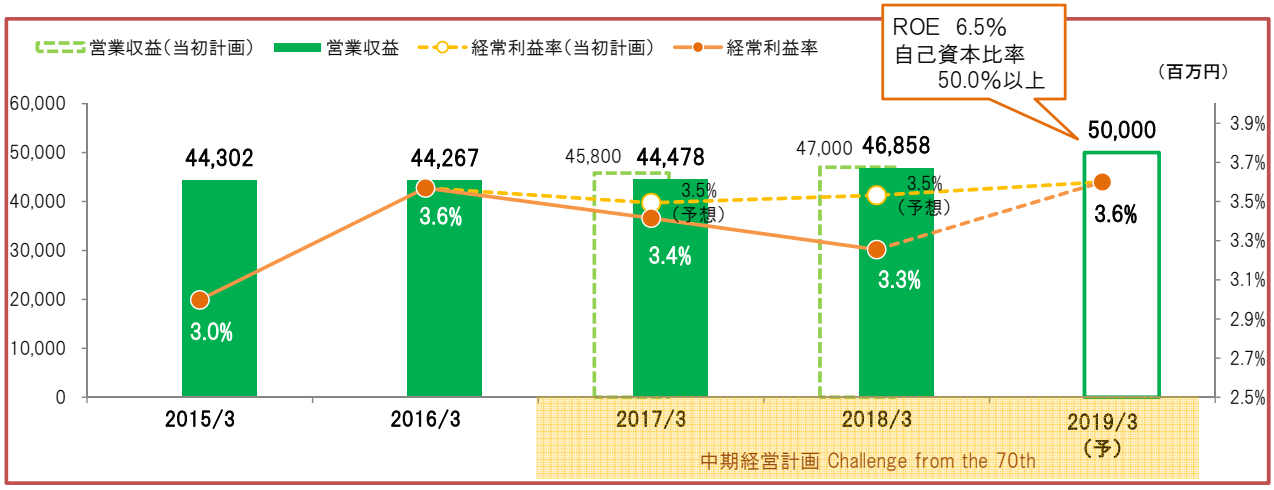
	2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2四半期	期末	第2四半期	期末	第2四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	894	2,021	1,269	2,773	1,286	17
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,234	▲2,114	▲489	▲1,377	▲1,350	▲861
財務活動によるキャッシュ・フロー	311	4	▲86	▲350	2,197	2,283
現金及び現金同等物の増減	▲27	▲88	693	1,046	2,133	—
現金及び現金同等物の期首残高	3,051	3,051	2,963	2,963	4,009	1,046
現金及び現金同等物の期末残高	3,024	2,963	3,656	4,009	6,142	2,486
設備投資費	1,265	2,412	324	1,284	1,751	1,427
減価償却費	702	1,491	824	1,638	814	▲10

中期経営計画の進捗状況
及び
2019年3月期の業績予想

中期経営計画の取り組み



中期経営計画:『エスラインブランドの確立に向けて』



			2015年3月期 (実績)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (当初計画)	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (当初計画)	2018年3月期 (実績)	2019年3月期 (予想)
営業収益			44,302	44,267	45,800	44,478	47,000	46,858	50,000
物流関連事業	貨物自動車運送事業	輸送サービス	33,489	34,365	34,407	34,651	36,920	36,858	38,866
		ホームサービス	4,908	4,343	4,479	4,203	4,651	4,557	4,677
	倉庫業	物流サービス	5,003	4,519	5,847	4,590	4,392	4,584	5,439
	その他サービス		175	190	186	178	179	276	171
			43,574	43,417	44,920	43,624	46,142	46,004	49,153
不動産関連事業			400	478	495	466	459	459	459
その他事業			327	371	385	386	396	394	386
経常利益			1,328	1,580	1,600	1,519	1,660	1,525	1,800

セグメント別業績予想

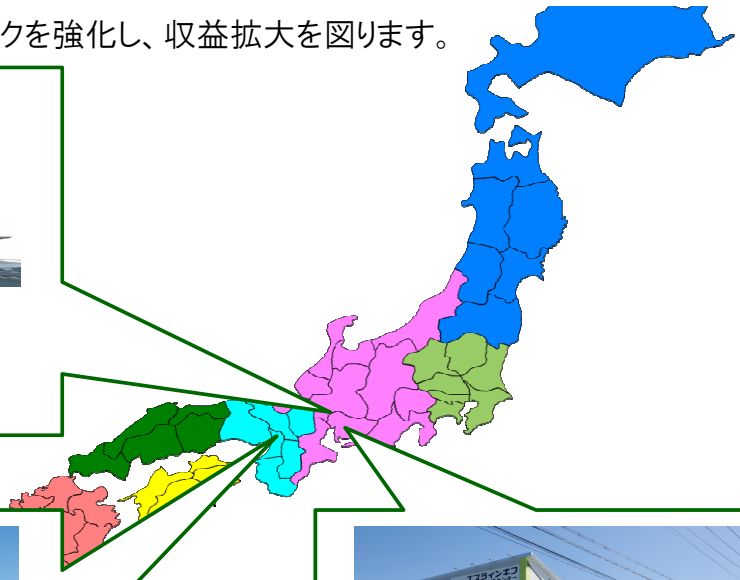
(百万円)

	2017年3月期 第2四半期	2017年3月期 通期	2018年3月期 第2四半期	2018年3月期 通期	2019年3月期(予想) 第2四半期	2019年3月期(予想) 通期	2019年3月期(予想) 通期 (前期比)
営業収益	22,016	44,478	23,152	46,858	24,451	50,000	6.7%
物流関連事業	21,578	43,624	22,720	46,004	24,033	49,153	6.8%
輸送サービス	16,677	34,651	17,610	36,585	18,501	38,866	6.2%
ホームサービス	2,283	4,203	2,451	4,557	2,853	4,677	2.6%
物流サービス	2,532	4,590	2,564	4,584	2,587	5,439	18.7%
その他サービス	86	178	96	276	92	171	▲38.0%
不動産関連事業	237	466	229	459	232	459	0.0%
その他事業	199	386	202	394	184	386	▲2.0%
営業利益	654	1,426	627	1,455	890	1,750	20.3%
セグメント利益	962	1,955	948	2,092	1220	2,400	14.7%
物流関連事業	771	1,603	782	1,775	1,066	2,086	17.5%
輸送サービス	558	1,341	540	1,350	728	1,588	17.6%
ホームサービス	40	▲6	76	116	177	137	18.1%
物流サービス	158	243	148	265	145	325	22.6%
その他サービス	15	25	18	45	16	36	▲20.0%
不動産関連事業	125	236	111	221	114	222	0.5%
その他事業	65	116	54	94	40	92	▲2.1%
調整額(本社経費)	▲308	▲529	▲321	▲637	▲330	▲650	▲2.0%

物流ネットワークの強化

東海道を中心に拠点ネットワークを強化し、収益拡大を図ります。

スワロー急送本社物流センター
住所：岐阜県岐阜市柳津町
延床面積：8,973.58㎡（2,714.51坪）
2018年11月7日稼働開始



エスラインギフ西淀川支店
住所：大阪市西淀川区
延床面積：2,660.78㎡（804.88坪）
2018年10月1日稼働開始

エスラインギフ豊田第2物流センター
住所：愛知県豊田市福受町
延床面積：5,479.79㎡（1,657.62坪）
2018年10月1日稼働開始

新たな物流サービスの展開

中部地区を中心に顧客ニーズに合わせた物流サービスをご提供します。

㈱エスラインギフ　飲料自動倉庫

住　所：岐阜県羽島郡岐南町
規　模：倉庫面積 5,455.12㎡ （1,750.87坪）
ﾀﾞｲﾌｸ 自動ﾗｯｸｼｽﾃﾑ 10,624ﾊﾟﾚｯﾄ収容
建物収容ﾊﾟﾚｯﾄ合計 11,116ﾊﾟﾚｯﾄ
投資額：17億円
今後の予定：2019年9月完成、10月稼動予定
予想売上高：年間3億円

【完成イメージ図】

飲料製品の入出庫・保管・輸送の一貫物流サービスを請け負います。
自動ラックシステムを導入し、少ない人員でも物量増に対応できるほか、機械化による一層の作業の効率化を図ります。

㈱エスライン郡上　移動ラック付定温管理倉庫

住　所：岐阜県郡上市
規　模：倉庫面積 1,774.78㎡ （536.87坪）
ﾀﾞｲﾌｸ 移動ﾗｯｸ 2,048ﾊﾟﾚｯﾄ収容
投資額：4億円
今後の予定：2019年4月完成、5月稼動予定
予想売上高：年間6,000万円

【完成イメージ図】

医薬品、医薬部外品製品の入出庫・保管・輸送の一貫物流サービスを請け負います。
限られたスペースで多くの製品を保管するために、移動式ラックを導入します。
また、空調設備によって製品を定温にて完全管理する機能を備え、限られた人員での作業の効率化と質の高い保管業務を行います。

ＣＳＲの取り組み（環境への取り組み）

物流業界では全国で3例目、中部地区では初めて、
電気小型トラック『 e Canter 』を5台導入します。

- ✓ 電力で駆動するため排出ガスを一切出さず、環境への負荷も大きく軽減
- ✓ 音や振動も少ないためドライバーへの身体的負担も少なく、労働環境の改善

導入拠点	㈱エスラインギフ…4台 ㈱エスライン各務原…1台
用途	岐阜・名古屋地区の集配業務、ルート配送
車種	三菱ふそうトラック・バス株式会社 「e Canter」 ※小型の電気トラック
燃費	家庭用電源10時間の充電で、約100km走行可能 従来のディーゼルトラックの軽油費に比べ4割減

EVトラックのオリジナルデザイン

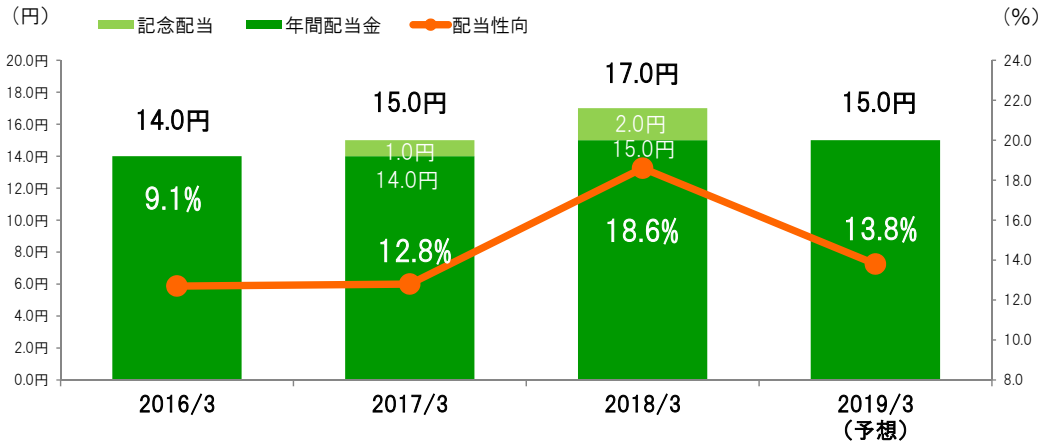
新たに導入するオリジナルデザインの「e Canter」

2019年3月期下半期の重点項目

物流関連事業	輸送サービス	➢ 適正な水準への運賃改定と諸料金収受に向けた営業活動の継続。 ➢ ㈱エスラインギフ西淀川支店の新施設を最大限に活用し、収入拡大を図るとともに、集配エリアの見直しや構内作業の改善活動を実践し、収入と利益を確保する。
	ホームサービス	➢ 人員不足への対応策として、採用窓口の拡大と社内教育の充実、さらには強力会社の開拓を行う。 ➢ 社内情報公開サイト「SL-PORTAL」や「引越研修センター」を活用し、営業面での研修と作業品質の維持向上に努める。
	物流サービス	➢ 11月に稼動開始した㈱スワロー急送の新本社物流センターでの、保管・物流加工業務を軌道に乗せる。（更なる営業強化と構内作業の効率化に向けた改善活動に取り組む）
全体		➢ ドライバーの確保。（研修の強化、全車両オートマチック車導入を目指す） ➢ エスラインギフの全ての幹線便に導入した眠気検知システムから取得したデータを活用し、乗務員が安全で安心して運行できる環境の構築を目指す。 ➢ 環境に配慮した「電気小型トラック」を5台導入し、岐阜・名古屋地区での集配業務やルート配送に使用する。 ➢ 「スワロー引越便」の業務支援をする情報システムや現場作業の早期終了、幹線便の早期出発を目指した「貨物輸送量の見える化」を実現する情報システムの構築。

株主還元

- 利益配当は、安定的な配当の継続と業績に応じた適切な利益配分を行うよう努めると同時に、事業の効率化及びグループの成長に向けた内部留保の充実等を総合的に勘案して決定することを基本方針としております。



- 決算期末の3月31日現在に単元（100株）以上保有されている株主様を対象に株主優待を実施します。

100株以上	保有年数 3年未満	クオカード　1,000円分
	保有年数 3年以上	クオカード　2,000円分

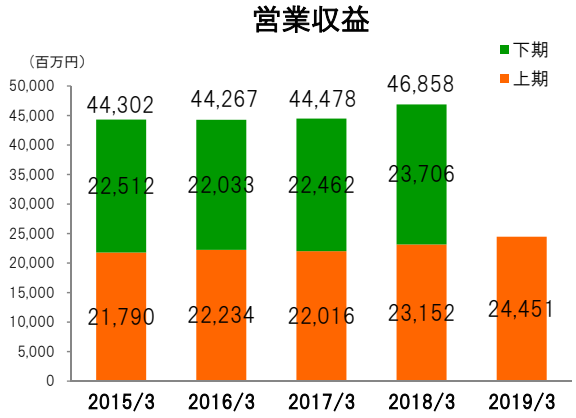
※　従来は保有年数にかかわらずクオカード1,000円分の株主優待としておりましたが、当社株式をより長期に保有いただき、ご支援いただくことを目的に変更いたします。

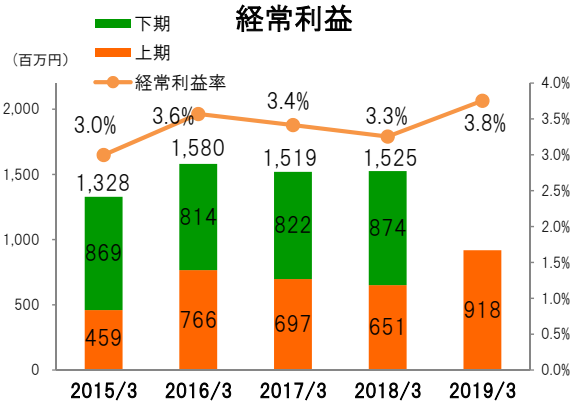
参考データ集

連結業績推移

（百万円）

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業収益	21,790	44,302	22,234	44,267	22,016	44,478	23,152	46,858	24,451	—
営業総利益	1,211	2,897	1,510	3,100	1,453	3,080	1,460	3,107	1,765	—
（営業総利益率）	(5.6%)	(6.5%)	(6.8%)	(7.0%)	(6.6%)	(6.9%)	(6.3%)	(6.6%)	(7.2%)	—
販管費	820	1,657	785	1,597	799	1,654	833	1,652	875	—
営業利益	391	1,240	724	1,503	654	1,426	627	1,455	890	—
（営業利益率）	(1.8%)	(2.8%)	(3.3%)	(3.4%)	(3.0%)	(3.2%)	(2.7%)	(3.1%)	(3.6%)	—
経常利益	459	1,328	766	1,580	697	1,519	651	1,525	918	—
（経常利益率）	(2.1%)	(3.0%)	(3.4%)	(3.6%)	(3.2%)	(3.4%)	(2.8%)	(3.3%)	(3.8%)	—
当期純利益	254	1,595	515	1,123	470	1,123	422	986	570	—





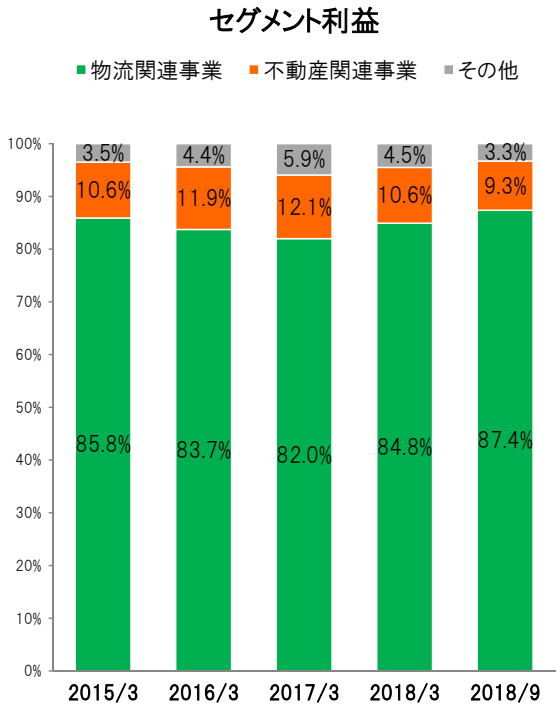
連結業績推移

（百万円）

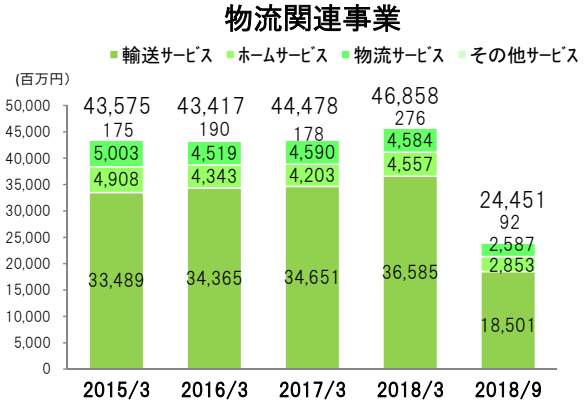
		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
		第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業収益		21,790	44,303	22,234	44,267	22,016	44,478	23,152	46,858	24,451	—
物流関連事業		21,426	43,575	21,807	43,418	21,578	43,624	22,720	46,004	24,033	—
貨物自動車運送事業	輸送サービス	16,537	33,489	16,627	34,365	16,677	34,651	17,610	36,585	18,501	—
	ホームサービス	2,470	4,908	2,531	4,343	2,283	4,203	2,451	4,557	2,853	—
倉庫業	物流サービス	2,334	5,003	2,562	4,519	2,532	4,590	2,564	4,584	2,587	—
その他サービス		85	175	86	190	86	178	96	276	92	—
不動産関連事業		201	400	239	478	237	466	229	459	232	—
その他事業		163	327	188	371	199	386	202	394	184	—

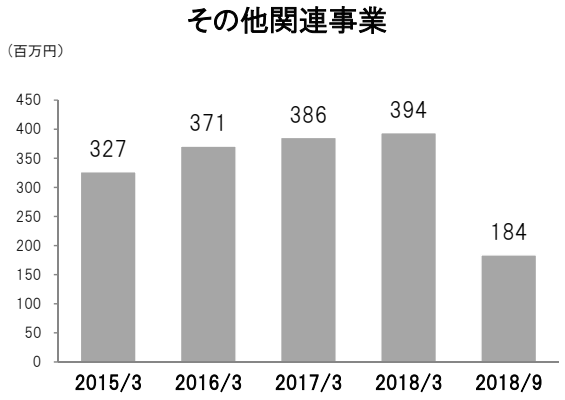
		2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
		第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業利益		391	1,240	736	1,503	654	1,426	627	1,455	890	—
セグメント利益		746	1,951	1,063	2,117	962	1,956	948	2,092	1,220	—
物流関連事業		615	1,676	884	1,772	771	1,603	782	1,775	1,066	—
貨物自動車運送事業	輸送サービス	557	1,475	736	1,645	558	1,341	540	1,350	728	—
	ホームサービス	▲9	▲27	47	▲25	40	▲6	76	116	177	—
倉庫業	物流サービス	61	211	93	138	158	243	148	265	145	—
その他サービス		6	17	8	15	15	25	18	45	16	—
不動産関連事業		102	207	124	251	125	236	111	221	114	—
その他事業		28	68	54	93	65	116	54	94	40	—
調整額（本社経費）		▲355	▲711	▲337	▲614	▲308	▲529	▲321	▲637	▲330	—

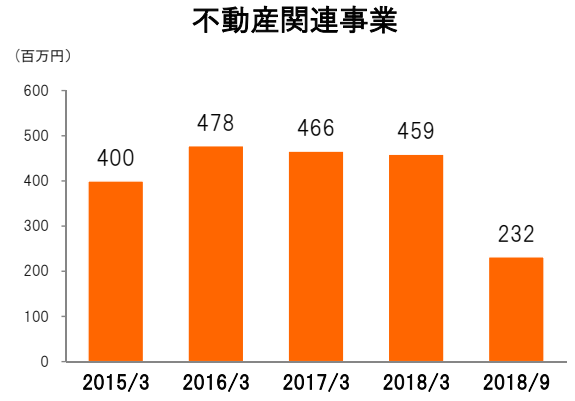
連結業績推移（セグメント別比率）



各セグメント状況（営業収益）



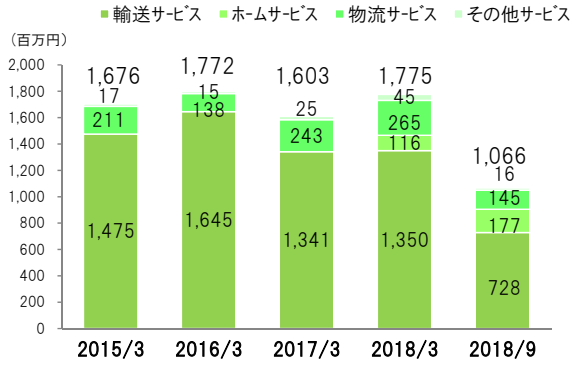




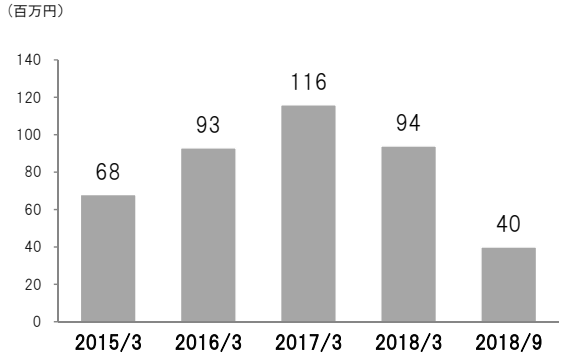
各セグメント状況（セグメント利益）

エスライン

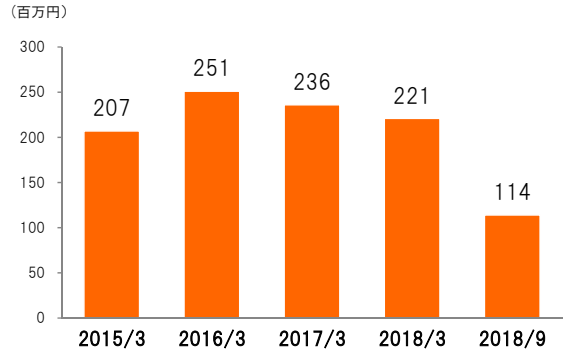
物流関連事業



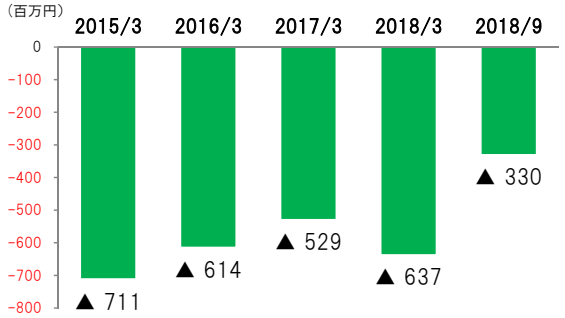
その他関連事業



不動産関連事業



調整額（本社経費）



連結財務推移

エスライン

（百万円）

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
流動資産	9,296	10.027	9,449	9,338	9,237	9,501	10,524	11,021	13,008	—
固定資産	21,327	21,475	21,792	22,386	22,924	23,316	22,857	22,847	24,071	—
資産の部合計	30,624	31,502	31,241	31,775	32,161	32,818	33,382	33,868	37,080	—
流動負債	7,921	7,777	7,031	7,284	7,481	7,380	7,408	7,945	8,756	—
固定負債	6,462	6,507	6,283	6,543	6,948	6,784	6,480	5,817	7,682	—
負債の部合計	14,384	14,284	13,315	13,827	14,430	14,164	13,888	13,763	16,439	—
株主資本	15,152	16,394	16,893	17,454	17,981	18,722	19,508	20,072	20,455	—
非支配持分	701	719	762	778	36	0	0	0	0	—
純資産の部合計	16,239	17,217	17,926	17,947	17,731	18,653	19,493	20,105	20,641	—
負債及び純資産合計	30,624	31,502	31,241	31,775	32,161	32,818	33,382	33,868	37,080	—
自己資本比率	50.7%	52.4%	54.9%	54.0%	55.0%	56.8%	58.4%	59.4%	55.7%	—
従業員数		2,026		2,055		2,117		2,100		—

	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期(予)
1株あたり配当金	—	7.0	—	14.0	—	15.0	—	17.0	—	15.0
配当性向		9.1		12.7		12.8		18.6		13.8

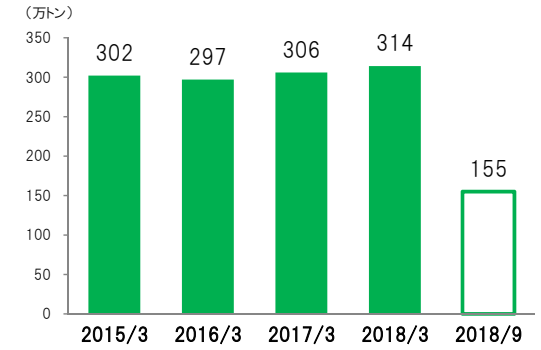
連結キャッシュフロー推移

（百万円）

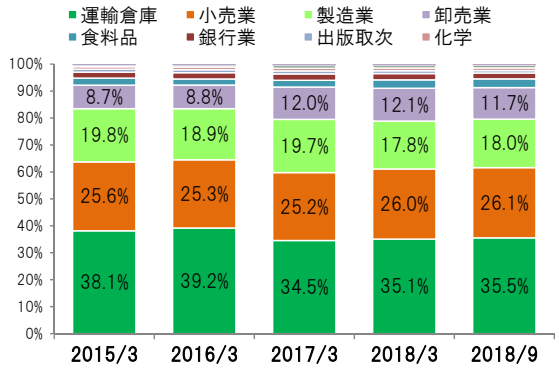
	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期		2019年3月期	
	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期	第2Q	通期
営業活動によるCF	954	2,424	1,116	2,232	894	2,021	1,269	2,773	1,286	—
投資活動によるCF	▲676	▲1,740	▲226	▲1,698	▲1,234	▲2,114	▲489	▲1,377	▲1,350	—
財務活動によるCF	▲96	0	▲435	▲527	311	4	▲86	▲350	2,197	—
現金同等物増減	181	684	415	6	▲27	▲88	693	1,046	2,133	—
現金同等物期首残高	2,741	2,741	3,425	3,425	3,051	3,051	2,963	2,963	4,009	—
現金同等物残高	2,922	3,425	3,460	3,051	3,024	2,963	3,656	4,009	6,142	—
設備投資費	927	2,239	450	2,219	1,265	2,412	324	1,284	1,751	—
減価償却費	625	1,285	598	1,267	702	1,491	824	1,638	814	—

その他参考データ①

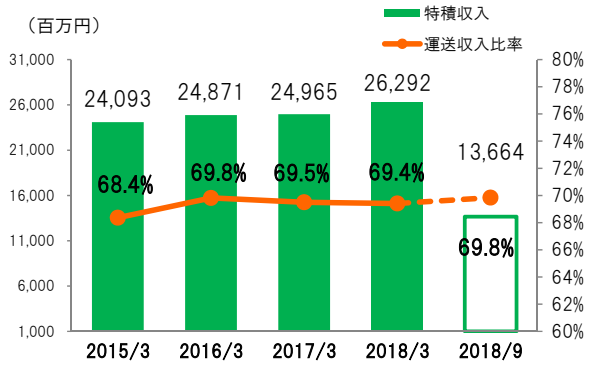
貨物輸送量



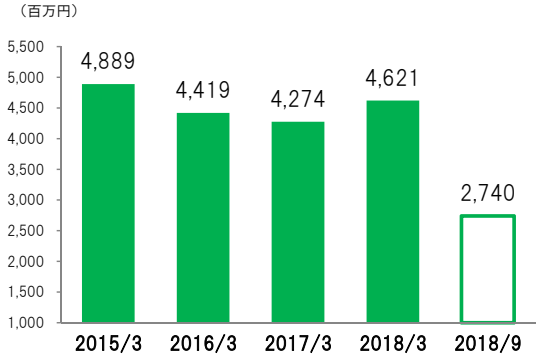
主な荷主の構成



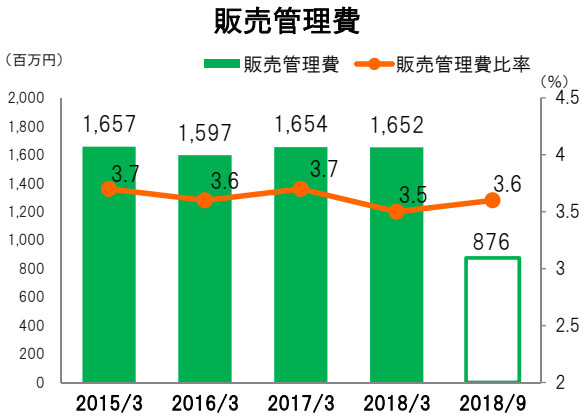
特積収入

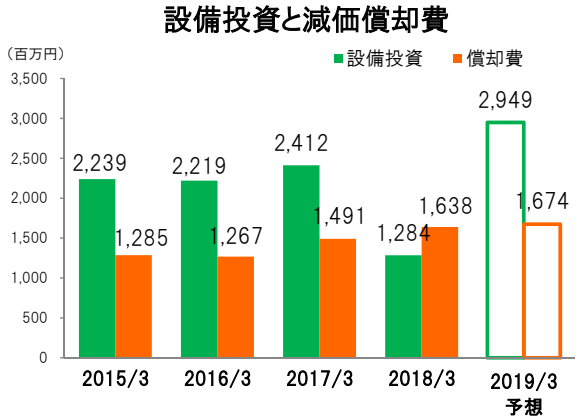


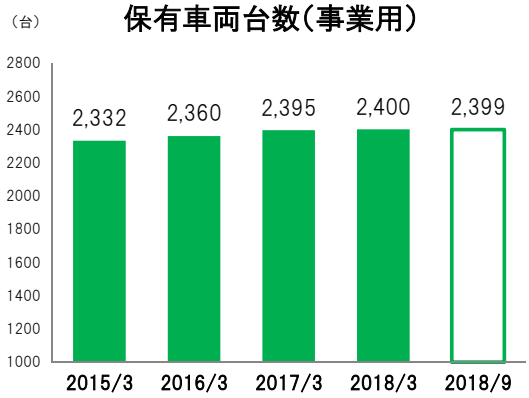
家電収入

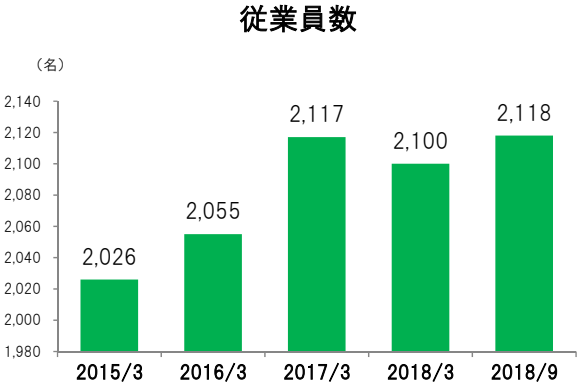


その他参考データ②









参考資料集

会社概要（2018年3月末現在）

会社名	株式会社エスライン（S LINE CO.,LTD.）
代表取締役社長	山口 嘉彦
本社所在地	〒501-6013 岐阜県羽島郡岐南町平成4丁目68番地
設立	1947年（昭和22年）3月10日
資本金	22億37百万円
発行済株式総数	11,095,203株
主な事業内容	物流関連事業 不動産関連事業 その他事業
子会社	23社
社員数（連結）	2,100名 （外、平均臨時雇用者数：1,290名）
車両数（連結）	2,400台（事業用）
上場区分	東京証券取引所市場第一部 名古屋証券取引所市場第一部

代表取締役社長
山口　嘉彦

本社社屋

エスラインの拠点ネットワーク

中部地区を中心に日本全国に広がるネットワークで、
お客様に喜んで頂ける物流サービスをご提供しております。

㈱エスライン羽島本社
（羽島市）

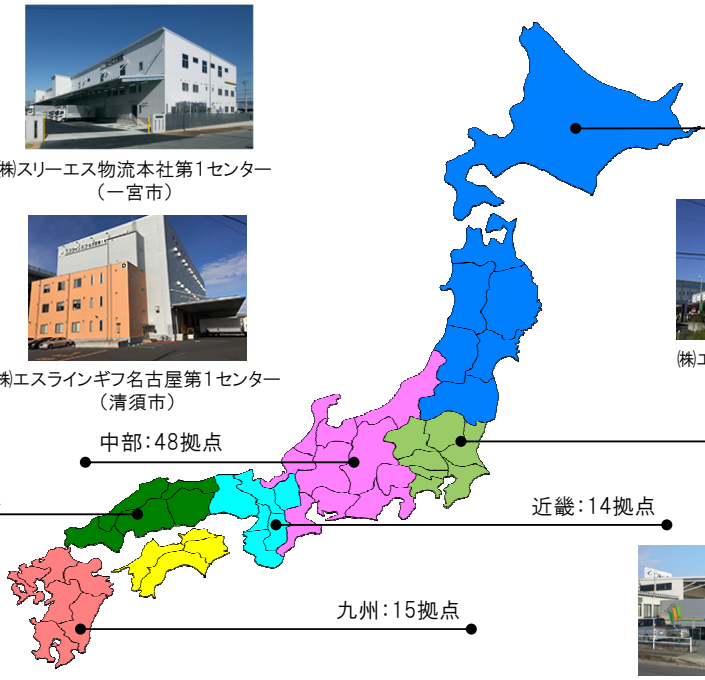
㈱スリーエス物流本社第1センター
（一宮市）

㈱エスラインギフ東北センター
（仙台市若林区）

㈱エスラインギフ豊田支店
（豊田市）

㈱エスラインギフ名古屋第1センター
（清須市）

㈱エスラインギフ東京支店
（東京都江東区）



㈱エスライン九州鹿児島支店
（鹿児島市）

㈱エスライン奈良本社
（奈良県天理市）

経営の基本理念

エスライン

社是「和」を中心に運命共同体の一員として職務に応じ企業の運営を分担する

基本理念

【和】
社是「和」のもと、労使一体の全員経営により、輸送の使命を果たして、みんなの幸せを追求します。

【法の遵守】
国内の法又は関係法令及びその精神を遵守し、オープンでフェアーな企業活動を通じて、社会から信頼される企業をめざします。

【社会貢献】
地域に密着した企業活動を通じて、経済・社会の発展に貢献します。

【環境と顧客の優先】
環境に配慮した物流企画の提案と輸送品質の向上に努め、お客さまに満足していただける物流を提供します。

【全員参加】
全社員が職務に応じて企業の運営を分担する全員経営により、対話と活力に満ちた企業風土をつくります。

社訓

● みどりの和をまわし、一歩前進 ●

・お互いがお互いに教え教えられる教育の場

・働き甲斐・生き甲斐を求める人づくり

社名の由来・社章・商標・サービスマーク

エスライン

エスはスピード（迅速）、サービス（親切）、セーフティー（確実）のスリーエスのモットーを表し、ラインは、日本列島の道路を表し、全国一貫輸送体制の思いから名づけられました。

社章		スピード（迅速）、サービス（親切）、セーフティー（確実）のスリーエスのモットーを表し、日本列島を一本の線（Line）にまとめ、全国一貫輸送体制をシンボライズしたものです。 とくにLineは道路を表し、全国どこへでも行くことを意味し、S Lineのあとの文字は、その会社の本拠地を示しております。
商標		1. スリーエスのモットーのように迅速、親切、確実である 2. 軒から軒へ小回りが利く 3. 一団となって団結している 4. 長距離を定期的に飛ぶ 信頼され、愛されるツバメをデザイン化したこのマークは登録商標になっております。
サービスマーク		スリーエス（スピード・サービス・セーフティー）のモットーを3色で表し、それぞれの色には、次の意味が込められております。 黄緑：スピード＝活力 オレンジ：サービス＝愛情 緑（コーポレートカラー）：セーフティー＝健全 多様化・高度化する新しい時代のお客様のニーズに応えて、スリーエスをモットーに労使が力を合わせて物流サービスを提供し、みんな（お客様・家族）の幸せを追求していく姿勢を表現しております。

沿革（エスラインの誕生）

エスラインは岐阜市内の荷物取扱店からスタートしました。

大正から昭和の初め頃の輸送手段は馬車によるものが主体でした。

1914年(大正3年)当時、二代目山口軍治社長の祖母の里が岐阜市金竜町で馬車休憩所兼宿を営んでおり、白鳥･郡上･関･美濃など岐阜郡部からの荷物を馬車、荷車などにより岐阜市に運んできた人達はここに立ち寄り馬を休めたり、休憩、宿泊をしていました。

同宿が往来者で賑わい、物資の受け渡しが頻繁に行われるのを見た、山口友吉は、同宿にて生活物資の運送取り扱いを始め、順次拡大を図っていきました。

1928年(昭和3年)昭和初期には馬車に代わる輸送手段として日本にもトラックが輸入されるようになったため、山口友吉はこれをいち早く導入、荷物を取扱うだけの運送取扱店にとどまらず、自らもトラックによる荷物の集荷･配達を行うなど、当社の母体となる㊟山口運送店をスタートさせました。

【岐阜トラック運輸株式会社】が創立されたのは1938年(昭和13年)ですが、陸運統制令や終戦により統合、分離を経て1947年(昭和22年)3月、初代山口軍治社長のもと資本金18万円、社員67名、車両30台でスタートしました。

1958年(昭和33年)3月、初代山口軍治社長が急逝し、二代目山口軍治社長が29歳の若さで社長に就任しました。二代目山口軍治社長の若さと行動力と革新的な発想力で1979年(昭和54年)8月には売上100億を超えるまでに発展し、翌1980年(昭和55年)4月名古屋証券取引所市場第二部へ株式上場するまでに至りました。

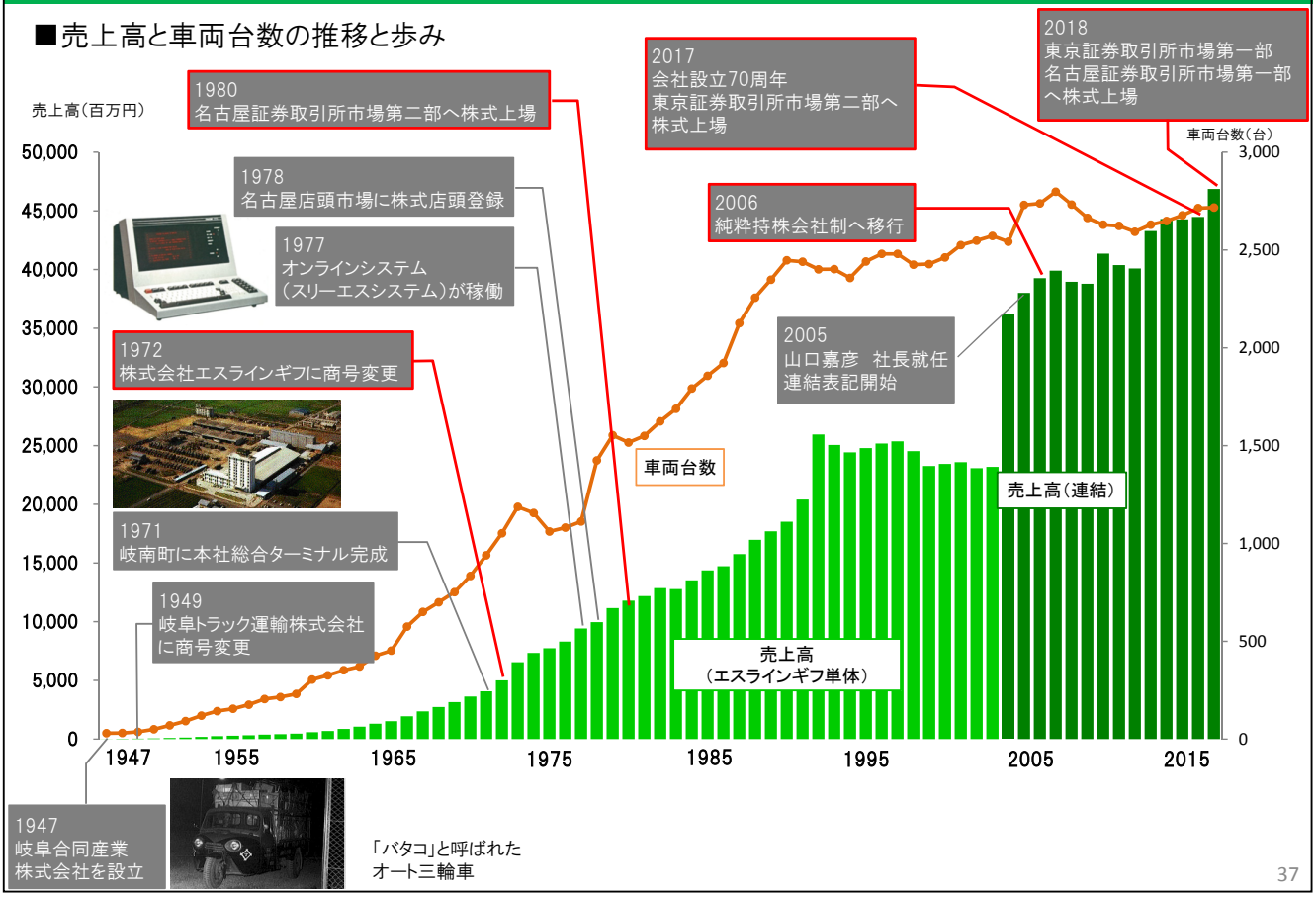
運送店主　山口友吉

初代社長　山口軍治

二代目社長　山口軍治

沿革（弊社の歩み）

■売上高と車両台数の推移と歩み



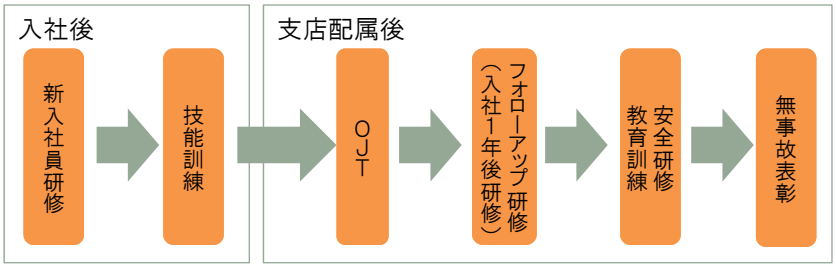
エスライングループの注力項目①

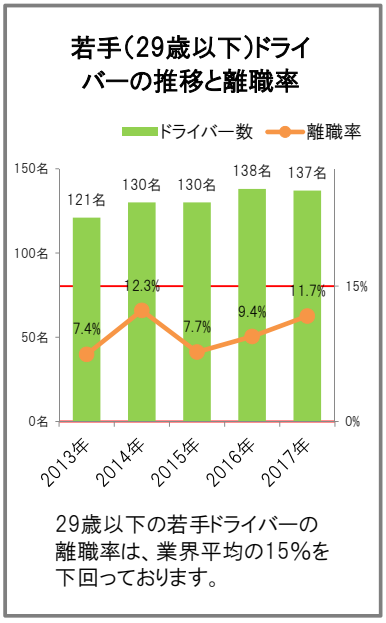
若手ドライバーの育成。

トラック運送業界ではドライバーの高齢化が加速しており、弊社においても若手ドライバーの採用・育成は課題の1つです。

■ ドライバー教育制度

入社後3～4ヶ月の間、安全教育（安全運転・安全作業）を含めた実務教育、車両点検、整備の研修等の技能訓練を本社で行った後、配属された支店にて引き続きOJTなどの研修を行います。





■ 資格取得サポート制度

中型・大型・牽引免許の取得のために「自動車運転免許取得推進制度」を設け、取得推進、労働意欲の向上、業務の効率化を目指しております。

エスライングループの注力項目②

働きやすい職場づくり。

人手不足が常態化する中で、健全な成長を図る為にも、労働環境の整備・改善に取り組んでいます。

■ 労務管理の見直し

時間管理方法・勤務体制の見直しを実施しています。

■ 時間外労働の削減

手待ち時間の短縮化、ITの活用による作業の効率化など長時間労働の削減を図っています。

■ ドライバーの健康管理

夜間乗務のドライバーには、6か月に1回健康診断の受診を義務化しています。
また、乗務前・乗務後には、対面点呼を行い、アルコール検知器により酒気帯び検査を行っています。

■ 「新はつらつ職場づくり宣言」による職場環境の改善

労働時間の短縮や有給休暇消化の奨励、介護・育児休暇の取得推進、女性にとっても働きやすい環境になるように整備を急いでいます。
また、社員の健康管理等にも、一層力を注いでまいります。

■ 女性が働きやすい職場作り

専用のロッカー、シャワールームなどを各拠点に順次設置しております。

「新はつらつ職場づくり宣言」を採択しました

女性ドライバーも活躍しています

エスライングループの注力項目③

安全への取り組み。－ ①

社員が力を合わせて、日本一事故の少ない会社にします。

■ 社内「安全三原則 」の徹底化

安全サイン

ONE! TWO! THREE! ZERO!

ONE　法定速度を守る
TWO　車間距離を保つ
THREE　追越しをしない
ZERO　事故はゼロ

安全サインは昭和43年に制定されてから40年以上、無事故の誓いとして受け継がれています。

■ 無事故表彰制度

永年無事故を継続し、他の社員の模範となるドライバーを讃えるため、昭和42年4月に「永年無事故功労者招待旅行制度」を　制定し、表彰を行っております。
これまで本制度によって、延べ1,200人以上のドライバーが、招待旅行を授与されました。

10年無事故／北海道・九州・シンガポールのいずれか
20年無事故／ハワイ
30年無事故／オーストラリア
40年無事故／ヨーロッパ

■ ドライブレコーダーと連動した通信型デジタルタコグラフの導入

幹線輸送を行う大型トラックなど、約350台にドライブレコーダーと連動した通信型デジタルタコグラフを導入しました。

ドラレコ画像を使った「ヒヤリ・ハット」事例による安全教育や急発進、急ブレーキ等、急がつく運転状況の分析をもとにドライバーの安全運転に向けた教育・指導に役立てています。

エスライングループの注力項目③

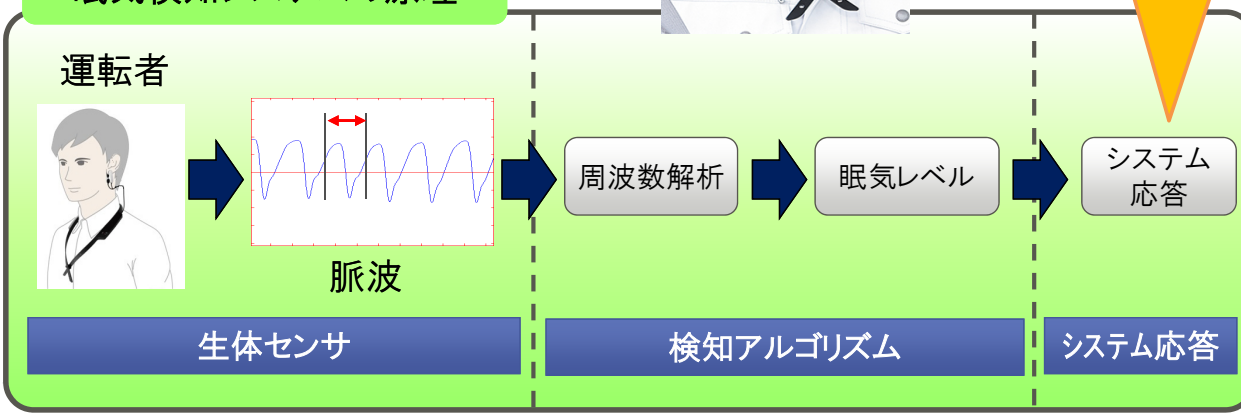
安全への取り組み。－ ②

■ 眠気検知システムの導入

富士通株式会社の眠気検知センサー「 FEELythm(フィーリズム)」の開発に協力。
本年より、㈱エスライングループのすべての幹線便トラックに導入。

■ドライバーへの通知（バイブ、音声）
■管理者への通知

眠気検知システムの原理



耳に装着したセンサーから取得したバイタル（脈波）データを、
独自のアルゴリズムにて運転者自身も気づかない予兆の段階の眠気を検知する。

エスライングループの注力項目④

地球温暖化の抑制、CO2の削減など環境への取り組み。

事業活動が環境に与える影響を認識し、環境を意識した取り組みをグループ全体で行っています。

■「環境方針」の設定

環境方針

基本理念

エスライングループは、社員一人ひとりが地球市民の一員であることを自覚するとともに、
地球環境の改善が重要な課題であることを認識し、以下の活動方針のもと、継続的に改善していきます。

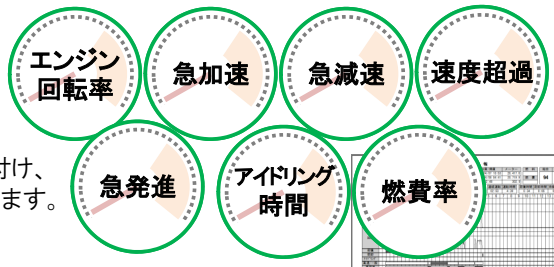
活動方針

1. 環境に配慮した物流サービスを提供します。
2. 改善意識で業務の効率を高め、時間を短縮します。
3. 省エネ省資源に取組み、廃棄物の削減とリサイクルに努めます。
4. 社員の環境教育と社外への情報公開を積極的に行います。
5. 法規制を遵守するとともに、業界方針なども積極的に実行して環境汚染の予防に努めます。

■ デジタルタコグラフの活用

- 経済運転によるCo2削減
- 安全運転による車両事故防止
- ドライバーの意識改善

などを目的として、デジタルタコグラフを全ての車両に取り付け、
自社基準による経済運転と安全運転の解析と指導を行います。



■ エコドライブコンテストの実施

エスライングループで省エネ運転(燃費率など)を数値化し、優秀な成果を収めた会社を
毎年表彰し、会社及びドライバーの省エネ運転への意識向上に取り組んでおります。

本日はご清聴ありがとうございました。

【お問い合わせ先】 株式会社エスライン　経営企画部
TEL:058－246－6749　FAX:058－240－4850
E－mail:keieikikaku@sline.co.jp

【免責事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。